

令和7年度第4回大野城市公共サービス改革委員会（会議録）

1. 日時 令和8年2月10日（火） 14:00～16:00
2. 場所 本館3階 庁議室
3. 出席者 公共サービス改革委員会委員および市職員等 16名

【内訳】

公共サービス 改革委員会委員（7名）	嶋田 暁文、野村 ひとみ、吉良 幸生、 岡崎 敏郎、西田 妙子、 長谷川 保宏、浦屋 奈美子	
市職員（8名）	辻総合政策部長	
	経営戦略課	的野課長、副島係長、 武田、樋口、梅野
	デジタル推進課	原課長
	財政課	千葉課長
株式会社日本政策総研（1名）	佐々木 央	

4. 議事概要（司会進行：副島係長）

（1）開会

◆あいさつ（嶋田委員長）

（2）審議事項

事業実施プロセスチェック結果・講評（案）について

◆資料に沿って説明（説明：日本政策総研）

◆各委員からの意見等を踏まえ、日本政策総研及び事務局にてプロセスチェック結果・講評（案）を修正することとする。修正案については後日書面での審議とする。

◆意見等は、別紙意見等一覧に記載。

（3）報告事項

「組織リスクマネジメント基本方針に基づく取組」の見直しについて事項

（4）事務連絡

（5）閉会

番号	対象業務	●意見・質問等(委員) / ○回答(事務局)
1	おくやみコーナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市役所から、死亡後の手続きを代理でやってくれる人の情報を提供してほしい。(長谷川委員)</li> <li>○死亡届は概ね葬儀会社の方が提出される。その方に各種手続き先が記載されたしおりをお渡しし、遺族の方にお渡しいただいているところはある。(事務局)</li> <li>○身寄りのない方の場合は、所管課で職権で処理している部分が多い。(事務局)</li> <li>●横須賀市が実施しているエンディングプラン・サポート事業のような支援をやるべきではないかというような話かと思う。(嶋田委員長)</li> <li>○本市では、終活サポート事業として、令和8年度より事業化を予定しているところである。(事務局)</li> <li>●横須賀市では、一人暮らしで身寄りがなく、月収18万円以下、預金250万円以下程度、固定資産税評価額500万円以下程度の不動産しか有しない方に向けて、様々な支援に取り組んでいる。(嶋田委員長)</li> </ul>
2	スタッフ管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実行委員会の在り方について、大学や外部の民間企業を活用し、これまで実行委員会が行ってきたことを広げていくような取組をぜひ行ってほしい。(嶋田委員長)</li> </ul>
3	広聴業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象業務「③広聴業務」「④広報『大野城』制作業務」のICT活用後増減時間が「0」となっているのはなぜか。(嶋田委員長)</li> <li>○改善提案の期待削減時間に記載のとおり、今後のAIの試用を通じて判断されると考えるため、「0」と記載している。(事務局)</li> <li>●注記で記載したほうが良いのではないかと。(嶋田委員長)</li> <li>○記載について見直す。(事務局)</li> <li>●パブリックコメントの数が伸び悩んでいると思う。全体的にパブリックコメントの数が増えるような取組を考える場合、広聴業務が主導すると思うが、考え方はあるのか。(長谷川委員)</li> <li>○仕組み作りは特にないが、各課でSNSで周知を図っている。(事務局)</li> <li>●参考までに、一般的に市政に対する不満や、市政が問題を抱えている場合は、パブリックコメントの数は多くなりやすいが、市政に問題が少ないような場合はパブリックコメントが集まりにくい傾向がある。十分に周知等したうえでパブリックコメントが集まらない場合、それはそれでいいと思う。ただし、少なければいいという話でもないと思う。(日本政策総研)</li> <li>●令和5年度の79件、令和6年度の100件の意見の中に苦情は入っているのか。(野村委員)</li> <li>○意見や要望、感謝、お礼等含まれている。(事務局)</li> <li>●それでこの件数は少ないと感じる。(野村委員)</li> </ul>
4	広報「大野城」制作業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>●補足だが、こちらの担当課の職員はすごく前向きで、本当にやる気がある中でのこの前向きなページ数削減であり、決してサービスを下げようということではなくて、むしろより良いものに仕上げていくために、余力を作り出して、みんなが関心を持って読んでくださるような市の広報紙に変えていきたいという思いの中でこういった改善提案になっているということも補足する。(嶋田委員長)</li> <li>●今は市内の広報も月一回に減らされ、組合の回覧も月一回しか回さないようになった。紙で読むことを嫌っているのか、新聞もとらなくなったと思う。みんなパソコン等で見て、年寄りだけが置いていかれるような世の中になっているが、デジタルだとじっくり読めない。紙面だと何日かけてでも読めるため大切だと思うが、全体的な流れとして減ってきているように思う。(浦屋委員)</li> <li>●マンション等では、自由に読んでもらえるよう、入り口フロアのボックスに回覧板が置いてある。今は本当に多様な思考であるため、広報というものもやっぱり考え直していく時期ではないかと思う。(野村委員)</li> <li>●大野城市は広聴業務も広報業務も同じ部署で行っているため、二つの業務を一体化するような方向に将来的に持って行くべきである。(岡崎委員)</li> <li>○「市民の声で変わりました報告書」を毎年市のホームページに掲載している。(事務局)</li> <li>●ホームページにはあげているが、広報には掲載していない。一体化するのであれば広報紙に掲載することが一番良いのではないかと。(岡崎委員)</li> <li>●「市民の声で変わりました報告書」が出るということ自体も広報紙にきちんと紹介されたいと思う。また、今後特集をするときに、いろんな苦情とか意見が出るものはやはり関心が高いということなので、そういったものを特集に組んでみたりとか、そういう形で表裏一体に運用していくことは大事かもしれない。(嶋田委員長)</li> </ul>
4	全体的な講評	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ずっと長く働き続けたいと思える魅力ある職場づくりに繋げられる言葉があるといいのではないかと。(長谷川委員)</li> <li>●業務効率化・省力化は、第一に職場環境をよりよくしていく余力を作り出すためであり、第二にその余力を使って課題解決にも積極的に取り組んでいくためのものである。そのため、決して省力化したからといって、正職員を減らしてしまうようなことは絶対してはいけないということを文章に入れ込んでほしい。(嶋田委員長)</li> <li>○記載について見直す。(事務局)</li> <li>●「望ましい」という言葉が何度も使われており、自身がないように感じるため、あまりよろしくないのではないかと。(「是認する」はどうか。(岡崎委員)</li> <li>○「望ましい」というのは「そうあるべき」ということなので、問題ないと思う。ただ、岡崎委員がおっしゃるようなここだけは絶対何かこういうふうにしてほしいというときに、若干表現を変えるというのはありかなとは思う。(嶋田委員長)</li> <li>○「望ましい」はむしろ「そうしなければいけない」という印象を受けるため、そのままの表記で特に問題ないと思う。(吉良委員)</li> <li>●職員も「望ましい」という表現で強い言葉と捉えられるかと思う。(事務局)</li> </ul>